

『上智経済論集』執筆要項

編集委員会
2007年7月

1. 論文の見出し分割は、まずローマ数字「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」……、さらに区分する場合はアラビア数字「1.」「2.」「3.」……とする。《アラビア数字の場合は「.」を付ける》
2. 句読点は、「、」「。」で統一する。
3. 「参考文献」(References)は論文の末尾にまとめる。参考文献は、洋書(著者のABC順に)と和書(著者のアイウ順に)に分けて並べる。同一著者で同一年に2つ以上の文献がある場合は、年号の後にa、b、cを付けて区別する。「注」は脚注形式を採用する(ただし提出原稿は論文の末尾で可)。
4. 本文および脚注での文献・頁の表示例 (《 》は説明です)
文献表示の基本は、著者・年号・頁の順番。ただし、()の付け方に注意。

例1. ブランシャール¹⁾は、「このような極端な産出量の落込みは……ないであろう」(Blanchard, 1997, 24-25)。この議論は、……
《あわせて本文中での脚注の表記法も記してあります》

例2. ここでのスティグリッツの主張について、河田(2000, 104)は「…合計価値が減少したために、労働需要が減少した」と解釈する。

例3. ハイエク(Hayek, 1987b, 105; 187; 訳108; 190)によれば、メンガーは……。
《2ヶ所ある時は、「;」を使う》

例4. この点を論じたものに、山田(1976)や中山(1998)、Knight(1979)、Aitchison and Brown(1957)などがある
《頁を示さないときには、年号だけを()でくくる。英文論文の場合も同じ》
5. 脚注の形式
1) これは……、「ヒックスにとって……」(Blaug, 1979, 34)。
6. 論文参考文献の表記
a. 欧文表記名はABC順で先に、和文表記名はアイウ順で後に並べる。

- b. 論文の場合は、必ず「印刷頁」を付記すること。
- c. 欧文の著書名、雑誌名はイタリックであるが、編集の都合上必ずアンダーラインを付けること。

参考文献 (References)

例 1. 編著に含まれる論文の表記

Cosmides, L. and Tooby, J. “Cognitive Adaptations for Social Exchanges.” in Barkow, J., Cosmides, L., and Tooby, J. eds., *The Adapted Mind : Evolutionary Psychology and the Generation of Culture*, Oxford University Press, 1992.

Arrow, K. J. “An Extension of the Basic Theorems of Classical Welfare Economics.” in Neyman, J. ed., *Proceedings of the Second Berkeley Symposium on Mathematical Statistics and Probability*, University of California Press, 1951.

例 2. 雑誌論文の表記

Pullen, J. “Malthus on the Doctrine of Proportions and the Concept of the Optimum.” *Australian Economic Papers*, 21(39) : 134–154, 1979.

《巻(号) : 印刷された頁, 年号》

Panzer, J. C. and R. D. Willig “Free Entry and the Sustainability of Natural Monopoly.” *Bell Journal of Economics*, 8(1), 80–90, 1977a.

例 3. 翻訳がある場合の表記

Winch, D., *Malthus*, Oxford University Press, 1987 (久保芳和・橋本比登志訳『マルサス』日本経済評論社、1992)。

例 4. 著書の場合

Aitchison, J. and Brown, J. *The Lognormal Distribution*, Cambridge University Press, 1957.

例 5. 邦語文献の場合の表記例

羽鳥卓也「『国富論』における生産的労働と蓄積ファンド」(経済学史学会編『国富論の成立』所収、岩波書店、1976)。

羽鳥卓也「マルサスにおける農業主義と商工業主義」『マルサス学会年報』(1) : 1–20、1991。

《巻(号) : 印刷された頁、刊行年》

横山照樹『初期マルサス経済学の研究』有斐閣、1998。

7. 外国人名の表記（カタカナ）は、発音が不確定なときには、初出時にのみ、例えば「バーコウ（Barkow, J.）」というように、原綴りを（ ）に入れて補うことにして、原則すべての欧文人名は、本文中ではカタカナ書きにする。
8. 欧文文献などにおけるイタリック表示は、編集作業を容易にするため、原稿提出時にはすべてアンダーラインを付けること。また、フランス語のアクサンやドイツ語やウムラウトなど、TXT 形式では保存できない特殊な文字については、ワープロ原稿に「黄色のマーカー」で指示する。
9. 論文は、ワープロ印刷されたもの 2 部に加え、Microsoft Word、Tex、または一太郎で作成したファイルのフロッピー・ディスクを添えて提出（メールの添付ファイルも可）のこと。ただし、手書き原稿の場合は、予めその旨を編集委員会に申し出て許可を得ることとする。
10. 論文原稿には、整理の都合上、執筆者氏名、論文名、連絡住所、電話番号、E-mail アドレスを記載した表紙を付けること（本学教員の場合でも、印刷所との関連で、お願いいたします）。
11. 校正は再校までとする。
（ここで用いられた事例は、一部架空のものです。）

付記

- 紙面全体の統一をはかるために、編集段階で表記の変更を行うことがありますので、ご了承ください。
- 「上智経済論集」掲載の原稿は、本学図書館のデジタル化に伴い、経済学部ホームページ上その他で公開いたしますので、著作権者にはこの点をご理解いただき、ご許可いただきたく存じます。